

# 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の効果分析及びレガシーの創出提案

静岡県立大学 大久保あかね観光研究室

指導教員：教授 大久保あかね

参加学生：榊原菜々、服部翼、深田千智、大平悠人、  
柴田さやの、高橋里奈、富樫里菜、法月大悟

## 1 要約

東京オリンピック・パラリンピック自転車競技が行われた小山町で、レガシー創出のための研究を行った。具体的には、1402件の小山町民へのアンケートやパラリンピックのコースサポーター・サクスイイベントのボランティア活動や小山町内での自転車での実走など、4回のフィールドワークを通して、ハード、ソフト面を含めた、小山町全体とターゲットごとの提案を作成した。自転車のまちづくりを進めるため一連の活動を通して今後の方針を考える。

## 2. 研究の目的

小山町では東京オリンピック・パラリンピック大会のロードレースが開催された。

大会前から自転車のレンタル事業の開始、小・中学生を対象としたオリンピック・パラリンピック講座などのイベントの実施、町民による沿道の花壇整備など、多くの取り組みが行われ町を盛り上げてきた。大会中は、小・中学生を対象とした「オリンピック・パラリンピック学校連携観戦プログラム」が行われたり多くのコースサポーターが大会を支えたりと、町一体となってオリパラを作り上げた。そして、選手たちが小山町を駆け巡る様子が世界中に発信された。

大会を終えた今、その後のレガシーとしての「自転車のまちづくり」を推進している。

本研究では、レガシー創出のための取り組みとして、主に①町民（小中高生とその保護者）とコースサポーターを対象とした自転車やロードレースに関する意識調査②パラリンピックコースサポーターとサクスイイベントへの参加③小山町を自転車で実走するという3点を実施した。この3つの方向性から、レガシー創出そして自転車のまちづくりを進めるための提案を行うことを目的としている。

## 3 研究の内容

今回の提案に向けて、以下のように3回の会議と3回のフィールドワーク、アンケートを実施した。

### ・8月13日【現地調査】

フジサイクルゲートで担当の方に小山町の概要やサイクリングの現状について教わったり、自転車のまちづくりの進め方について話し合ったりした。また実際にオリンピックのロードレースコースを車で視察した。初めて小山町の勾配を肌で感じた。

### ・9月2日、9月3日【パラリンピックコースサポーター】

パラリンピックのコースサポーターをすることでロードレースの迫力を身近で感じると共に、町民でコースサポーターに参加している方々と交流し、自転車についてや小山町についての情報を集めた。

小山町で自転車のまちづくりをしたいと言うと驚かれる方が多かった。

### ・9月17日【アンケート送付】

成美小学校、明倫小学校、足柄小学校、須走中学校、北郷中学校、小山高校の生徒と保護者を対象としたアンケートを紙で作成し、教育委員会の協力の元、発送した。アンケートは、各学校で対象学年の生徒と保護者に配布及び回収をお願いした。

### ・10月10日【アンケート集計と分析開始】

紙で調査したアンケートをネットに落とし込む作業を行った。アンケートを集計した結果、1402



件獲得することができた。分析は、集計したものからターゲットごとに行った。オリパラを観戦したか、自転車のまちづくりになぜ賛成なのか、なぜ反対なのか、今後どのようなイベントを期待するかといった内容に関して、情報を得た。

・10月19日【小山町オリンピック・パラリンピック推進局とweb会議】

新しい担当の方と顔合わせをした。今までの活動を振り返り、今後のスケジュールを確認した。組織委員会で自転車ロード担当の観点からアドバイスを頂いた。

・11月18日【小山町オリンピック・パラリンピック推進局とweb会議】

アンケートの集計結果、分析を踏まえた提案の報告をした。ターゲット別の提案を詰めたり、先進事例や批判的な意見に対しての考え方について話し合ったりした。

・12月6日【シクロツーリズムしまなみ山本理事の講演】

サイクルツーリズムを確立し、全国から観光客が訪れるようになるまでの背景を教えてもらった。10年後を考えた提案をすることが大切だと分かり、小山町での自転車のまちづくりと照らし合わせて、今後何をしていくべきか改めて考え直すきっかけになった。

・12月11日、12月12日【フィールドワークとサンクスイベント参加】

1日目に自転車で小山町を走行し、2日目に自転車交流会とサンクスイベントに参加した。サンクスイベントでは、訪れた町民の方に、小山町のおすすめの場所や景色が綺麗な場所、自転車で走ると危険な場所などをマップに書き込んでもらった。おすすめの場所ではあるが、危険な場所でもあるスポットを知ることができた。

・1月13日、1月14日【最終合宿・小山町オリンピック・パラリンピック推進局と会議】

最終的な提案について話し合った。また、プロジェクトの総括を行った。



## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

①オリパラが自町で開催されたことによる自転車に対する意識変化の調査

②実際に小山町を自転車で走るフィールドワーク

### (2) 実際の内容 (A 予定通り B 一部修正 C 中止 D 新規)

・新型コロナウイルスの影響で無観客開催となったため、そこまで自転車に対する意識の変化は変わらないと考えた。そのためオリパラが開催される前と後の意識変化ではなく、開催後の自転車のまちづくりに関してどう考えているかを調査した。(B)

・実際に小山町を自転車で走行した。(A)

・ボランティアとして、パラリンピックのコースサポーターに参加した。参加されている町民の方に自転車に対してどう考えているのか直接調査することができた。(D)

・小山町でオリパラが開催されたことを記念する「東京2020 in OYAMA Thanks Event」にスタッフとして参加した。またそこで参加者の方々に自転車で走るなら「オススメなスポット」、「危険なスポット」をマップに書いてもらい調査を行った。(D)

### (3) 実績・成果と課題

実績・成果をアンケート分析の結果からと、フィールドワークを行った後の感想から分けて説明する。

#### ① アンケート分析

小山町で開催された自転車競技ロードレースを観戦した割合は、小中学生が37%、高校生が24%、保護者が48%であった。3世代において、約9割の人が自転車のまちづくりについて3以上の点数を付けている。(5段階評価) 競技観戦以外に自転車に関連したイベントで参加したいものを年代別に聞いたところ、以下のような結果が出た。全世代共通して自転車を気軽に楽しめるようなフェスタやお祭り、試乗体験といったイベントに興味があることが分かる。また、安全講習や乗り方講座にも興味を示している人がいることが分かる。

図1. 小学生の結果

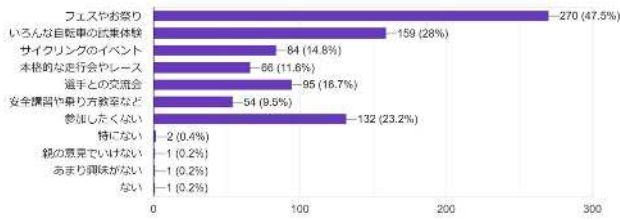
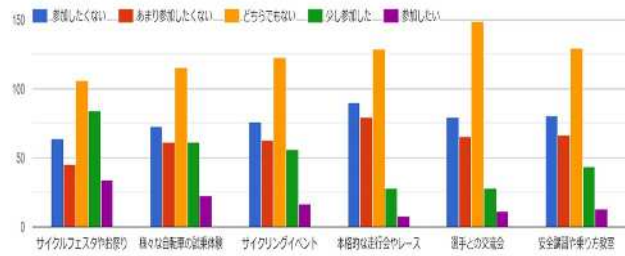
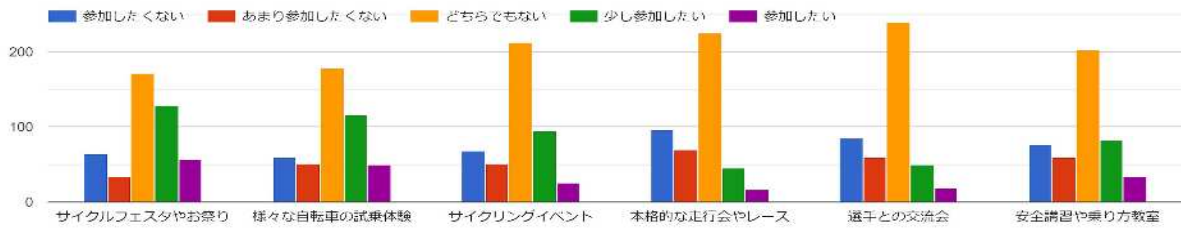


図2. 高校生の結果



自転車のまちづくりを進めていく上で、自転車を身近に感じ、楽しんでもらえるような取り組みと、自転車に乗る人も乗らない人もこれから乗るようになる人も安心、安全に生活できるような取り組みが期待される。

図3. 保護者の結果



② フィールドワーク(コースサポーター・自転車走行・サンクスイベント)

I. コースサポーター

無観客観戦のため盛り上がり欠けるといった印象を受けた。しかし実際に生で競技を見て迫力を感じた。この迫力や感動を味わってもらうためにも、オリパラだけでなく定期的に自転車レースの大会を開催すべきだと考える。

II. 自転車走行

自転車が走れるようなスペースの確保(矢羽根や自転車レーン)がなされていないため、車との距離が近く、危険であると感じた。自転車のまちづくりを進めるためには、自転車の安全が確保された道路を作るべきであると考えた。

III. サンクスイベント

参加者の方に調査したところ、普段から車や徒歩で公道を走っていて危険だと感じる箇所はほとんど共通していた。また安全な場所、景色の綺麗な場所は点々としていた。このマップをもとに危険な場所を避けながら自転車講習会やイベントの開催を行うべきだと考える。(道路整備が終わるまで)

道路整備が終わるまでに出来ることが多くあるが、効率よく行えるように手順を考えなければいけないのが今後の課題である。

(4) 今後の改善点や対策

小山町の道を活かして自転車部を創立することに対して、小山高校の生徒や先生はどのように考えるのか意見交換をすることができなかったため、まずは話し合う必要がある。また、初心者ルートを作成した後実走して確認する必要がある。



## 5 地域への提言

町民アンケートとフィールドワーク、会議での内容を踏まえ、「小山町全体」と「ターゲットごと」の提案の2つの視点から働きかける必要があると考える。

アンケート結果から全世代から共通して交通整備を求める声が多く挙がり、本格的に自転車のまちづくりを進めるにあたっては交通整備が必要不可欠である。交通整備としては、矢羽根や自転車レーンの設置、車道の整備が必要であると考えます。また、より快適に自転車を楽しんでもらうためには、サイクルステーション、ピットを増やす、サイクルオアシスを設置することが求められる。さらに、オリパラに使用された道路だと分かるようにして注目を集められるようにするためには、道路に線を引く、といったことも求められる。しかし、これらの整備には時間が掛かるため整備を進めている間にできることを提言したい。

	具体案	背景
小山町全体	自転車大会や公道を使ったイベント、安全講習の開催	アンケート結果から普段から自転車に乗らない町民の方が多い事が分かる →まずは自転車の安全な乗り方から知ってもらう必要がある
	・気軽に自転車に乗れるような初心者向けのルートを作成 ・日限定ガイドツアー	実走して、険しい道が多いため初心者がいきなりそのような道进行するのは危険だと分かる 途中にカフェやベンチで休憩したり、絶景スポットで写真を撮ったりと、初心者用の楽しみ方があると感じる →もっと気軽に誰でも自転車を楽しんでほしい
	オリパラが行なわれたことを継承していくイベントの開催	オリパラが開催される前に行っていた「オリンピックまであと〇〇日」のようなイベントは町民の意識を高めた →開催後もオリパラを忘れないようにしたい
小中学生	学校連携観戦プログラム	アンケートから観戦した人は楽しめたということが分かる →今後も続けていくべき
	・子供向けのイベント開催 ・自転車交流会(試乗体験) ・自転車に乗れない人向けの乗り方講座	アンケートから競技以外にフェスやお祭り、イベントに興味を示す人が多いと分かる →サイクルスポーツセンターのような色々な自転車体験、平坦な道のサイクルコース走行、ビンゴや抽選の実施
高校生	自転車部と自転車サークルの創立	小山高校の生徒で通学に自転車を使用している人が多い →自転車に乗りなれた人が多い
保護者	小中学生向けのイベントや高校生の自転車部の大会の応援に参加	アンケートから、子供が自転車に乗ることや競技を観戦することに対して興味を示す声があると分かる →子どもから保護者を巻き込む

## 6. 地域からの評価

今年度は、オリンピック・パラリンピックが実際に開催された年だったので、コースサポーターとして実際に沿道に立ち、生で東京2020大会を感じてもらえたのは良い経験になったのではないのでしょうか。

また、サンクスイベントにおいては、参加者へのアンケート実施のほか、運営への協力・オリンピックである飯島氏による自転車乗り方交流会などにご参加いただきました。

コロナ禍で活動に制限がある中での調査研究でご苦勞もあつたかと思いますが、その中でも実際の現場を経験し、肌で感じたことを元にご提言いただき大変ありがたく思います。

町としてもオリンピック・パラリンピックを一過性のものでなく、スポーツツーリズム、自転車の町づくりなど、今回の提案も参考に今後の町の発展につなげていけるよう取り組んでまいります。